

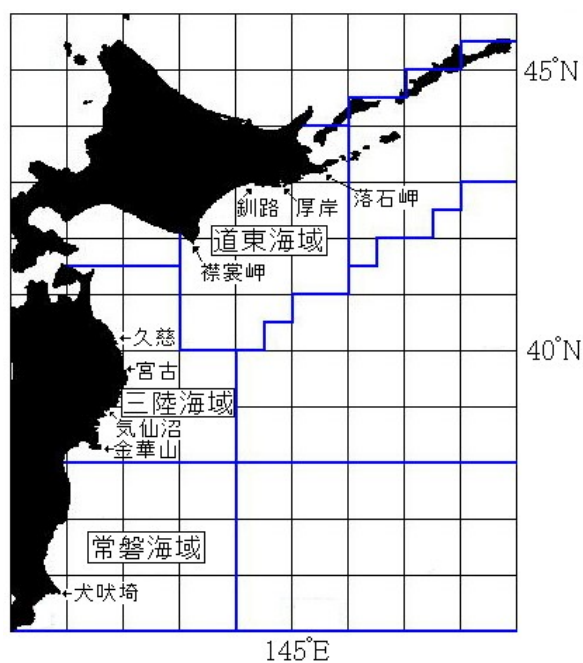
平成30年度 第2回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2018年9月下旬～11月上旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、来遊量は9月下旬から増加するが、低位水準である。
- ・三陸海域では、10月中旬になると、来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、松尾
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

平成30年度 第2回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2018年9月下旬から11月上旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

来遊量は、9月下旬～10月上旬にかけてゆるやかに増加するが、低位水準である。10月中旬～11月上旬は、道東海域よりも南側を南下する魚群もあり、来遊量は減少する。

(2) 漁場

9月下旬の主漁場は、道東海域より北東～東側の択捉島南沖～色丹島南沖と落石東南東沖となるが、道東海域では落石南沖に漁場ができる。10月上旬は厚岸沖まで漁場が広がり、10月中旬は襟裳岬南沖にも漁場が形成される。10月中旬～下旬は落石南沖～襟裳岬南沖に漁場が形成される。11月上旬は、襟裳岬南沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月中旬は、低位水準ではあるが来遊がある。10月下旬～11月上旬は、来遊量は増加するものの低位水準である。

(2) 漁場

10月中旬は、三陸北部に漁場ができる可能性がある。10月下旬は三陸北部が漁場となる。11月上旬は、三陸南部まで漁場が広がる。

2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位増加	低位増加	低位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	落石沖	落石～厚岸沖	落石～襟裳岬沖	落石～襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量					
	動向			低位増加	低位増加	低位増加
	漁 場			北部	北部	北部～南部

3. 漁況の経過概要（9月上旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年同様、低位水準であった。道東海域よりも北東側の花咲港東北東沖における来遊量の水準は、前年並の低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域よりも北東側における来遊量は、期前半は少なかったが、期後半に増加した。

(2) 漁場

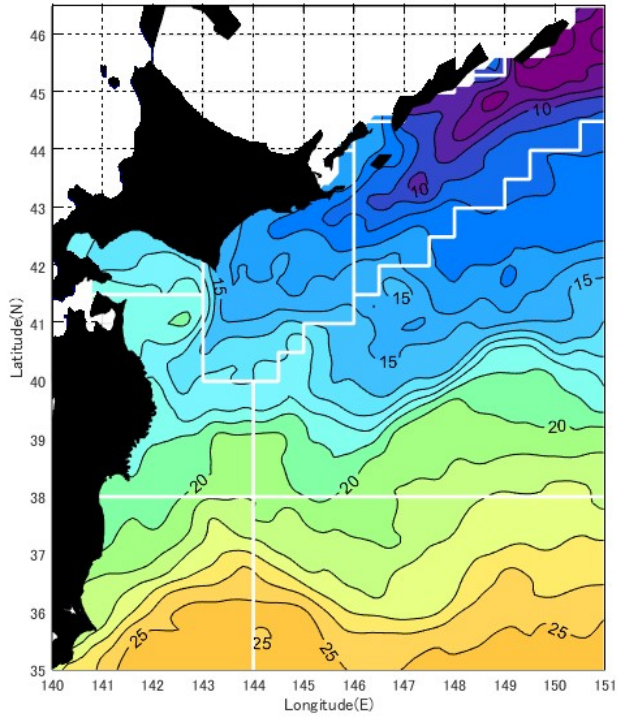
道東海域よりも北東側の花咲港東北東沖が主漁場であり、道東海域に漁場は形成されなかった。主漁場は、道東海域よりも北東側の、花咲港東北東沖の花咲港まで2日程度かかる場所（8～11℃）であった。一方、7～8日夜にかけて花咲港東460～540海里（16～17℃）で、大型船が25～30隻程度操業。7日夜は最高55トン漁獲したものの、8日夜の漁獲量は少なかった。

(3) 魚体

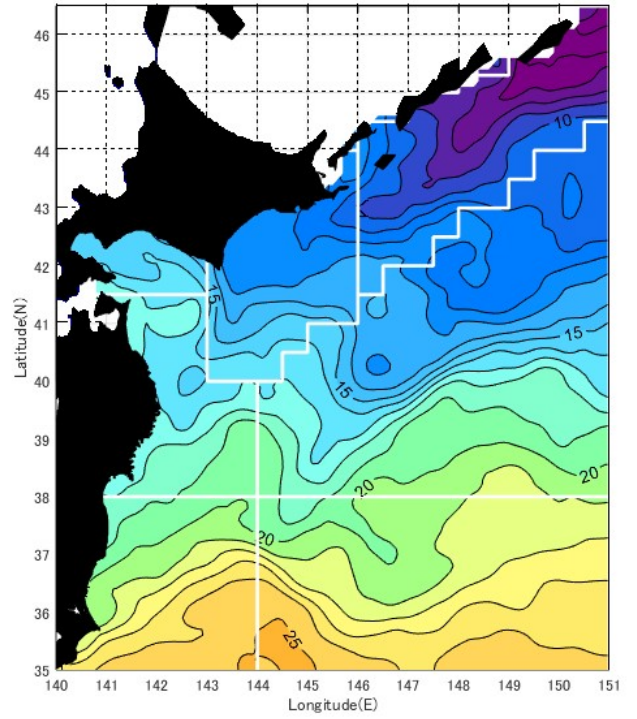
道東海域よりも北東側の、花咲港東北東沖では、期前半は体長29～30cmモードと23～25cmモードであった。漁獲が上向いた期後半は、体長29～30cmモードで、体長28cm未満の混じりは少なかった。体長29cm以上の魚の体重は120～140g台が主体であった。

※常磐海域の予報については、第3回（9月28日発表予定）から行う。

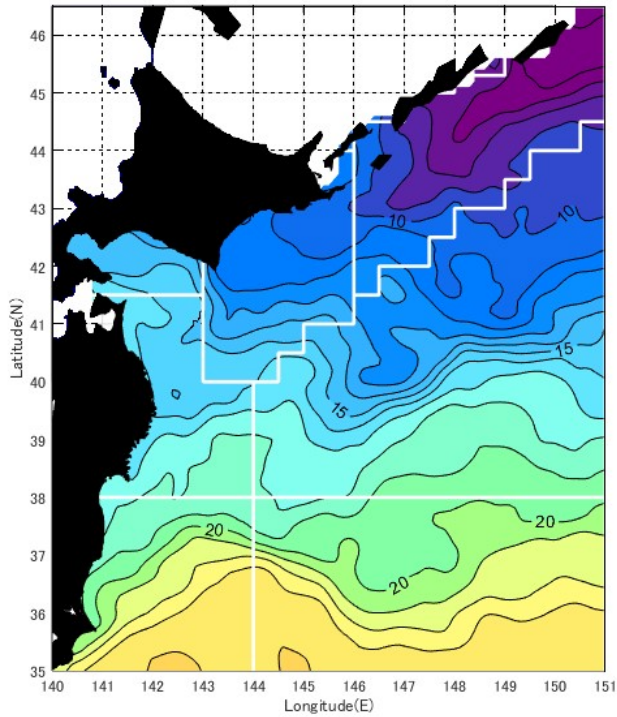
10月上旬予測表面水温分布図



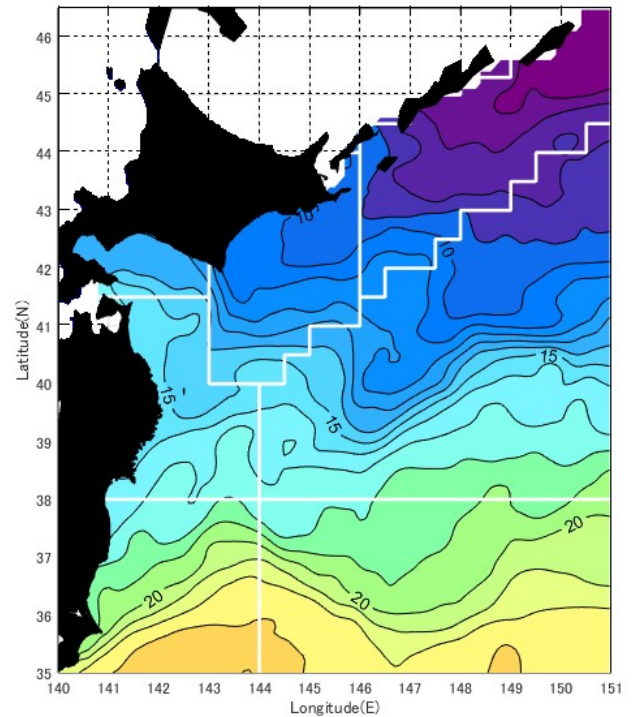
10月中旬予測表面水温分布図



10月下旬予測表面水温分布図



11月上旬予測表面水温分布図



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	--